

古今遊藝集
後編
下



と人の題集後編秋之部目録

乾坤之部

文月一	秋立	二	夕日秋	初秋
残暑	初山	三	家火	七夕口
星を宵	星合	五	硯洗	露の月
生肌	雨	六	角力	露路
七	秋風	八	八朔	夜長
夜寒	秋月	九	秋暮	初夜
秋比水	初月	十	月見	名目
十三	月を宵	十一	月の雲	雨の夕
十六	秋の月	十二	重陽	后月
秋の色	秋の山	十三	秋星	秋の室
十四	秋の山	十四	秋の白	秋日和
十五	秋の山	十五	秋の白	秋日和
十六	秋の山	十六	秋の白	秋日和
十七	秋の山	十七	秋の白	秋日和
十八	秋の山	十八	秋の白	秋日和
十九	秋の山	十九	秋の白	秋日和

橘の葉 十八 相一葉、菱極、木槿、蒲葺 十九

植物之部

文人明題集後編

秋之部

文

月

文月やそのまじりかお初るれまか

澤目

文うらやまのふりかたのうらやま

夷島

文うらやまのふりかたのうらやま

嶺陰

文月のまじりかたのうらやま

葉子

文うらやまのふりかたのうらやま

水雲

秋

立

秋立といふまじりかたのうらやま

石見
鳥居得

秋立といふまじりかたのうらやま

三草

秋立といふまじりかたのうらやま

雪湖

角 觥

抑々帳の風あき二百ヤ一の形
つるまろくまろく人をちかろく角力取
非代くく何くまことくく角力取
お摺物くあつてくくくくく
くくくくくくくくくくく
陽まてくく名跡もあくくくく
ふくあや心くくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
夜はまーくくくくく

玉 碩
尊 規
徳 々
思 柴
一 亭
西 誓
白 踏
遜 阿
曾 規
梅 権

露

あつたれくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

為 山
玉 徳
野 南
亦 右
芳 塩
又 耕
景 原
正 人
淡 山
雪 咲
壽 和

新く世也... 専志
河まはるや... 左聖
あつと... 定席
栞と... 聖山
新く... 万斜
うら... 水臺
八月の夜... 菅富
八月の... 東聖
八月... 一亭
ハ組の... 友甫
一峰

八月

ハ組

夜

夜寒

ハ組... 井字
ハ組... 法筭
夜... 控筆
夜... 海月
夜... 踏成
夜... 左聖
夜... 岩山
夜... 拙珠
夜... 晴成
夜... 出人
夜... 麓雲

明りも又減くそまふあめの月又く形
 崎の影北をそつ見え出するらん身
 影通しと飛くそあつらうらん見知
 名月也を物以てささる橋のくさ
 名もや海をささるまきりまきりの上
 名月也石の川をわきつらぬ
 名月也浪のまきりくすくす川
 名月也波をささるまきりくすくす川
 名もや舟をささるまきりくすくす川
 名月也船をささるまきりくすくす川

夷岳
 米山
 龜持
 塞馬
 見外
 世貞
 甘茶
 松香
 松富
 雲亭
 古棠

名もや河をささるまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや海をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川
 名もや河をささるまきりくすくす川
 名月也あつらんまきりくすくす川

晨風
 喜松
 巴無
 加美
 平志
 文節
 種五
 東苗
 十條
 素月
 一星

清きふくも昔もた山の月

月の雲 月を雲を揺り風を吹く

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

権飛

長春

豊産

権飛

定雅

是浦

権月

玉清

雲亭

六槐

玉頰

十六夜いさよもや心よしもをさすササクハク

白睡れら物良しよよふあれ方うぬ

まじくといふよふふ影やうのれく遠

十の夜や清ついでうすめく影くやま

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

あふく支那の宮殿を月を照らす

権飛

以足

玉清

多可女

素手

唯風

晴山

素手

水臺

木籬

結之

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

あふく支那の宮殿を月を照らす

文里
 甘原
 玉頌
 勝樂
 俄友
 望路
 信也
 方象
 文莫
 哲林

首の香
 桔梗
 女命を
 初之
 澤月
 而石
 夏衣
 来足
 夢月
 葉二
 水臺
 夏草
 首運
 如鳥

學仙意 垣外之毛 庭ハ庭 何ノ學仙意 歩右
 枝折たの節 けき 垣外ハ庭 何ノ學仙意 生 笑
 稻の毛 七 庭の毛 何ノ學仙意 巴 弓
 二 庭の毛 何ノ學仙意 碩 水
 世 何ノ學仙意 十 條
 何ノ學仙意 氷 臺
 月 栞
 五 吳
 翁 古

後 栞

萩

一 馬
 旗 飛
 夷 島
 子 油
 一 階
 月 栞
 由 皮 確
 而 生
 三 交
 生 也

芭

瓢

菌

脂

瓢のちみちとまうこのくねくね瓜
 ゆきあまの保のまぢやうくす瓜
 ちつてはれ名地高くぬあうくさ身
 ちまの落のちとれぬぬく屋うぬ
 神うぬちまききく一瓢のそくちか
 群の人れつんぬくす末のうすか
 蘇原くくくくすも抜くす菌うすか
 芭くくもす物くくもすたきくく物
 まりうくくくくくくくくくくくく
 脂、舟也川くくくくくくくくくく
 以ひ原くくくくくくくくくくくく

一 糖
 美 遣
 猪 月
 牛 舌
 羊 旭
 羊 塚
 鹿 角
 栗 鼠
 控 義
 毒 舌
 不 由

戸名まきまきくくくくくくくくくく
 うぬいぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 冬脂ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 考のそくくくくくくくくくくくく
 田一ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 こくくくくくくくくくくくくくく
 ち麻くくくくくくくくくくくくく
 刈ちまきまきくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくくく
 甲をちくくくくくくくくくくくく
 以ひ原くくくくくくくくくくくく

一 糖
 玉 硬
 後 友
 後 山
 思 成
 粟 二
 藤 桂
 猪 政
 羊 橋
 玉 硬
 酒 泉

日月よりくぬや歩きの喜み此 古 目 標
 其外ぬちとのまをぬや歩み此 古 目 標
 きくぬのまをぬや歩み此 古 目 標
 明りぬや歩み此 古 目 標
 西よりぬや歩み此 古 目 標
 晴るぬや歩み此 古 目 標
 世まをぬや歩み此 古 目 標
 まうまをぬや歩み此 古 目 標
 ぬや歩み此 古 目 標
 又うぬや歩み此 古 目 標

紅葉 以足
 未 標月
 未 友狸
 未 等哉
 未 以足

うぬや歩み此 古 目 標
 其外ぬちとのまをぬや歩み此 古 目 標
 きくぬのまをぬや歩み此 古 目 標
 明りぬや歩み此 古 目 標
 西よりぬや歩み此 古 目 標
 晴るぬや歩み此 古 目 標
 世まをぬや歩み此 古 目 標
 まうまをぬや歩み此 古 目 標
 ぬや歩み此 古 目 標
 又うぬや歩み此 古 目 標

巨月
 古雲
 大圓
 箕山
 古棠
 波洞
 曾珠
 喜月
 喜月
 喜月
 喜月

電馬

新をあらうとくの時をさしあひしりて身
世戸のあはれとくの時をさしあひしりて身

公成
如之

文毛

氷臺

芦野

及柳

晴鈴

晴鈴やあめりう新あふりあふり
晴鈴やあめりう新あふりあふり

梅樓

精々

雲煙

芭蕉

秋の蟬

晴蟬

晴蟬やあめりう新あふりあふり
晴蟬やあめりう新あふりあふり

而后
蒼陽

宗儿

如志

赤雲

唯也

双長

筆玩

歩山

五和

涼月

新

田代出送
田代出送
夕々々や田代出送
あれたまき六時を
よもぢあふり山
山名を畑

鳴

明星の光よきえんわ鳴るまじり
夕月此影のうけり形く 野
明星れききりるもれうや鳴るうら
高う道する田うあ鳴るく 田の鳴
立しれを鳴るるりりそのうあ
まきこは海よりんせはるまの 鳴
やうまきききりるあきり湖の鳴
やうあまきききりるあきり湖の鳴
又まきききききききききききき
案の鳴ハ一羽もなきは雲の鳴
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父

負鳥 采飯 常鳴 岩山 淡岸 定仕 多吟 吳由 才三 古棠 波月

鳴

鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
日こつるまききききききききき
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父
鳴るくや鳴るよる人此鳥る父

春以 氷臺 首丸 世負 出兮 羽長 五具 正人 十條 素月 白雪

若

落る日の思つらふあや知りて
 増ふれば根よすまらる本や知りて
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも

芝草

氷臺

布文

由松

祐之

美義

曉乃

卍南

松原

在聖

涼月

沙魚

引きしむ麻やうむく九十九折
 山々雪うらむ夜と逢て
 若くもたよふ思ふ知らるるか
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも
 ちりちり雪の音もあやしくも
 麻をきくうせうもあやしくも

六摺

山雪

赤菫

米乃

暖禱

英園

雲毫

波勢

波勢

三草

世貞

約さうとせや日らま〜山せり
 せを為のせはれ〜りま〜す〜
 河魚釣や釣ま〜高〜く〜あ〜
 ちや釣や釣ま〜甜〜ま〜ま〜
 釣ま〜ま〜せやあゆ〜ま〜
 業山子
 日たあ〜ふ〜く〜山田の〜
 鳴子 鳴子 鳴子
 人の心〜ま〜ま〜
 鳴子 鳴子 鳴子
 多のうせの〜ま〜あ〜ま〜
 十條

燕 帰 戸の〜ま〜
 高〜く〜飛〜ま〜
 一 雁
 白雲れあ〜ま〜
 夜〜ま〜
 石の〜ま〜
 よ〜ま〜
 修〜ま〜
 鳴〜ま〜
 甲〜ま〜
 人〜ま〜
 不 由
 長久二
 雲霞
 三友
 箕山
 松溪
 海月
 玉碩
 文里
 兼琰
 弥大

施餓鬼

越し垣よりちとあ上や施餓鬼柳

ふ二九

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

草市

草市や草市や草市や草市や草市や

史山

燈の輝く中をゆく家や春七ころゆき
 経本流 月代を流るるありす 経本か
 放生會 木の多きとよみなりけり 放生會
 交家此方へ飛りゆくれし鳥
 飛しやまきとるる飛鳥し 放生會
 油子

一題一句み追加の部
 秋 何を無北のものとさく 冬 人の海
 肌寒 ちくちくや目を省る人つらむ
 卜 早
 乙 若

秋の秋 無北の夜やちくちく 人の道
 秋の積 世よとくき身より入りぬ 秋の秋
 秋北海 山よりれくつらとく 秋の秋
 秋心 ひとり居るやまき 秋心
 秋火 ちくちくをさく 秋火
 秋名 月 ちくちくをさく 秋名
 秋日 月 ちくちくをさく 秋日
 秋二 日月 入りたるはちくちく 秋二
 秋残 月 残 月 ちくちくをさく 秋残

一 碩
 有 交
 巨 月
 有 友
 立
 梅 溪
 葉 山
 厚 洗
 素 月
 結

居終月 子部の山より 雨より終 月 晴風
 菊 月 菊より 中 菊ハ 中 菊ハ 中 菊ハ 中 菊ハ 中
 秋の雪 山より 秋の雪 山より 秋の雪 山より 秋の雪 山より
 露 霜 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を
 秋北 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を
 九月 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を
 秋北 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を 戸を
 松島

芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉
 蔓珠 蔓珠 蔓珠 蔓珠 蔓珠 蔓珠 蔓珠 蔓珠
 粟刈 粟刈 粟刈 粟刈 粟刈 粟刈 粟刈 粟刈
 得の 得の 得の 得の 得の 得の 得の 得の
 西 瓜 西 瓜 西 瓜 西 瓜 西 瓜 西 瓜 西 瓜
 松 山 松 山 松 山 松 山 松 山 松 山 松 山
 鬼 灯 鬼 灯 鬼 灯 鬼 灯 鬼 灯 鬼 灯 鬼 灯
 糸 瓜 糸 瓜 糸 瓜 糸 瓜 糸 瓜 糸 瓜 糸 瓜
 茅 茅 茅 茅 茅 茅 茅 茅
 零 餘 零 餘 零 餘 零 餘 零 餘 零 餘 零 餘
 本 屏 本 屏 本 屏 本 屏 本 屏 本 屏 本 屏 本 屏

残 蚊 跡 ち 蚊 と ち ち ち ち 思 小 柳 所 ち 所 青 竹
 恒 朔 夕 月 け 彩 ち け ち ち ち 恒 朔 不 夜
 吟 等 吟 竿 ち 山 風 ち ち ち 達 と ち ち 生 炭
 鰯 鱈 ち ち ち ち ち ち ち 水 臺
 鰯 鱈 鰯 鱈 ち 川 中 海 ち ち ち 一 岸
 嶺 赤 ち ち ち ち ち ち ち 林 曹
 山 築 ち ち ち ち ち ち ち 芳 叢
 下 築 石 ち ち ち ち ち ち ち 赤 穀
 栗 沼 麻 書 ち ち ち ち ち ち ち 波 路
 流 帖 山 川 ち 帖 ち ち ち ち 旭 富

芋 莖 一 節 ち ち ち ち ち ち ち 赤 穀

升 帝 ち 帝 ち ち ち ち ち ち ち 為 山
 抄 帖 抄 帖 ち ち ち ち ち ち 五 々
 ち ち ち ち ち ち ち ち 花 園
 樹 突 入 ち ち ち ち ち ち 五 休
 切 ち ち ち ち ち ち ち 安 海

今人明題集後編

冬之部

十月十日の夕まはるの尾花のちり

冬吟

十月やうらまゝのあまのつゆの

芦花

十月やうらまゝのあまのつゆの

嶺風

十月やうらまゝのあまのつゆの

文帯

十月やうらまゝのあまのつゆの

宋書

十月やうらまゝのあまのつゆの

時表

初冬 初まゝや新まゝのほろのちり

巨月

初まゝや新まゝのほろのちり

一馬

小春

初冬也 田舎の 房も 冬と ありし 支
物も や 暮る ころの けし 初春の 糸
明も 色く 雪の 名も 二つ ころ 小春 在来
是下 とも ころ あり とも とも とも とも
山 影の 間へ ありし とも とも とも とも
とも とも とも とも とも とも とも とも
房の 影も とも とも とも とも とも とも
小春 あり とも とも とも とも とも とも
魚も とも とも とも とも とも とも とも
とも とも とも とも とも とも とも とも
甲も とも とも とも とも とも とも とも

思成 波田 裾之 隣月 昔春 唯吟 昇外 旭 及柳 不富 有交 一德

時

雨

雨の 音も とも とも とも とも とも とも
夕も とも とも とも とも とも とも とも
梅も とも とも とも とも とも とも とも
月も とも とも とも とも とも とも とも
明も とも とも とも とも とも とも とも
鳥も とも とも とも とも とも とも とも
貝も とも とも とも とも とも とも とも
草も とも とも とも とも とも とも とも
花も とも とも とも とも とも とも とも
鳥も とも とも とも とも とも とも とも
木も とも とも とも とも とも とも とも
山も とも とも とも とも とも とも とも
水も とも とも とも とも とも とも とも
石も とも とも とも とも とも とも とも
土も とも とも とも とも とも とも とも
空も とも とも とも とも とも とも とも
地も とも とも とも とも とも とも とも
人も とも とも とも とも とも とも とも
物も とも とも とも とも とも とも とも
事も とも とも とも とも とも とも とも
時も とも とも とも とも とも とも とも

素弓 采形 双鳥 波文 菊連女 龜得 東扇 一馬 宗茂 法荀

持舟にやうの居りくおまわくまは舟
衣とよよのあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟

大圓
全
松^{三十一}翁
竹文
甚曉
羨峯
夷岳
爰荒
歩夢
乙居

深ううまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟
あうまわくまは舟のあうれにまわくまは舟
まわくまは舟のあうれにまわくまは舟

甘柔
松洞
空雅
午枝
乍台
十隙
玉碩
有
蒼岳
踏成
雪水

冬の日
 文をかくし 湯のきり けしき せむ けしき
 多う女 嘉穀 文友 湖雪 東港 貞人 一衣 種西 推雨 可勢

風のなみの 裾のきり けしき せむ けしき
 多う女 嘉穀 文友 湖雪 東港 貞人 一衣 種西 推雨 可勢
 冬の日 漸高々と 水は流る けしき せむ けしき
 多う女 嘉穀 文友 湖雪 東港 貞人 一衣 種西 推雨 可勢

霜 月
昔のころは名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは
岩のそとに名もあらずやさしくは

冬 至
寒 入
雨 散
十 條
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我
一 我

明くすしゆまあしりてつねに家ありけ
擇てけく臨ふ又つるおちりて
かうしてふさの申しを又落する
る茶のあむるや海もさうして
亦茶のあむるにさうてふのさ
蘇もその日海へくよる亦れりて
そをさけふてりてあめ茶あり
一まらうとさうてりて亦のさ
入舟の管うてりておれりて亦
所らさうとさうてりて亦のさ
茶のさや所茶のさうてりて亦
亦茶のさ

十條
一者
所
蘇
明
梅
雪
権
左
仙
月

茶のさや日蓮茶れ臨ふさうと
一西ふつる茶のさや畑のさ
茶のさや世茶のさうてりて亦
茶のさやさうてりて居まは茶も採ふ
茶のさや小石まらうてりて亦
茶のさや白や茶のさうてりて亦
山茶のさやかす日さうてりて亦
さうてりて探まは茶のさうてりて亦
山茶のさやさうてりて亦と思ふ
さうてりて又さうてりて居る
山茶のさやさうてりて亦

曾
玉
十
龜
松
氷
玉
不
壽
玉
芝
薺

け枝ハ花のまきも形くく冬つりき 一 星
日をうらるる暮暮ハぬくし冬枝 藤 旌
冬枯の種葉よまきもく小唐草 水 目
冬くまきや敷ハ馬のある村のくち 水 臺
枯柳 かきまきく小柳くくくくくく 巨 月
おろくまきれし雪のあらしをぬ 梅 旌
枯くまきくくく柳のああまき 風 化
川とや枯く枯くくくくくくくく 陰 風
くまきくくくくくくくくくくく 常 暎
ハツま 花の波地くくくくくくくく 五 具
くまきくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく 十 暎
くくくくくくくくくくくくくく 曾 旌
ハツま 咲まきのまきりやまきと垣根 五 内
冬牡丹 目おくくくく唯一掃のくくくく 保 内
くくくくくくくくくくくくくく 臺 步
くくくくくくくくくくくくくく 枯 く
くくくくくくくくくくくくくく 十 暎
くくくくくくくくくくくくくく 斗 外
枯 芍 茗くくくくくくくくくくくく 古 棠
くくくくくくくくくくくくくく 夷 岳
枯尾ま ぬしくくくくくくくくくく 柳 臺

鸞一羽交りて多し羽の
加方ぬくも接取あゝ鳴る人
立ち去るれもも言ふく月
かともぬくもあすかゝりて
古法といひあゝもあやう
本訓あゝやゝもあやう
かともぬくもあすかゝりて
西うあゝもあすかゝりて
又さうもあすかゝりて
くもあゝもあすかゝりて
あまもあゝもあすかゝりて

羽長
松島
去月
善画
琴亭
一碩
爰二
山雪
分炭
俵友

千鳥

鶯越ゝゝ河をわたりて
新の鶯ゝゝ河をわたりて
あゝもあゝもあゝもあゝも
あゝもあゝもあゝもあゝも
あゝもあゝもあゝもあゝも
あゝもあゝもあゝもあゝも
あゝもあゝもあゝもあゝも
あゝもあゝもあゝもあゝも

花園
三守
素弓
耳流
氷壺
由松
五渡
菅左
龜將
花右

うらやまのまこと 繁はあけのや 鳴ちしり
あし 海やふもれあはるも 深のまつり
浪うつり ちりちり ちりちり ちりちり
鳴や免は ぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ
鳴 風やうの 鳴るふや 鳴るふや
そあやうの 鳴るふや 鳴るふや
月や雲の 鳴るふや 鳴るふや
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり

茶 瓢
千 布
赤 港
天 池
夷 岳
夏 草
松 富
神 丈
及 柳
麴 之
青 外

外考

海にやう山のあやうのや 鳴ちしり
何うなるか なるか なるか なるか

其 意
松 島

鷓鴣

山をたふしのうらやま 月をたふしのうらやま
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり

可 泉
尾 村
分 賞
孫 阿
壺 岳

細代

あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり
あし ちりちり ちりちり ちりちり

平 林
赤 港
赤 月
壺 岳
孫 阿
分 賞
尾 村
可 泉

此の書も常と初とく女神のつと
 中を女とくよふ日のまゝと又神はくま
 本をともくく日の中つて神のつと
 色意忌 ともて銭忌やけをく知る合へ人多
 とも忌や松よつるのそくは 一
 達二忌 達二忌よ一畑あきし神サあふ
 達二忌やあきしとくハ降去家
 命溝 菊の香もあきし種まは命溝
 心成溝や意味之し文読のそく書
 十夜 羽織あきしとくく通まはく十夜
 へんそく通まはく山文の灯もやあきか
 雪 晴 芳泉 山 由 水 牛 氷 山 山 山
 嶺 夕 久 石 壺 誓 裾 裾 裾
 嶺 夕 久 石 壺 誓 裾 裾 裾

美くも夜ふくあきしあきし十夜
 足とくハ銭珠あきしとくく十夜
 文成のそくまはるる十夜
 あきしたくくあきしとくく十夜
 子編者もまはるる色あきし夫溝
 怪子溝のそくあきしとくくあきし
 葉あきしとくくあきしとくく怪子溝
 月あきしとくくあきしとくくあきし
 あきしとくくあきしとくくあきし
 風あきしとくくあきしとくくあきし
 霞くくあきしとくくあきしとくくあ
 山 雪 竹 雅 十 多 古 巨 玉 玉 天
 雪 竹 雅 十 多 古 巨 玉 玉 天

鉢 町

身 溝

推舟をたふしそしめて神多し其
吸とたふす道通つせん神多し其
雪をふりぬき流すし神多し其
吸入るる神多し其味呑せん神多し其
牛乳をぬきしりて流す也神多し其
又さうすし也流す所なり
寒念佛 溪の音より衣をかきぬき
是れをきく月夜に臥しるるも
袖をたふすに松の影をまじ
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき

五和 吟風 下集 一亭 永拙 氷壺 地象 漢蓀 吟風 赤岳 一撫

里神樂

去りてとて世々いへば
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき

雅韻 天池 凡人 可静 芝席 吟風 貞書

師走

曲るあまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき
あまの世の神もやとて言ふも
ゆくりとほりて又ぬきぬき

清氏 沽願 甘原

日路や山を涉る此谷此谷
同く〜〜〜

一馬 一 製正

獵

八獵ハヤツマシト云フ也

八 獵半

葺

葺キト云フ也

三 葺

葺

葺キト云フ也

青 樹

山 祐

山 祐

漢 標

漢 標

煤

煤ト云フ也

花 外

思 成

思 成

牛 右

牛 右

葺

葺キト云フ也

一 崎

赤 岳

赤 岳

一 亭

一 亭

尋 岳

尋 岳

一 峰

一 峰

茶 雷

茶 雷

五 具

五 具

昌 古

昌 古

石

石ト云フ也

月 杵

衣

醜

とくくや尾さうりぬと種もは
衣醜の日をあらうふや門の梅

不由
吟望
梅雪

繁牛

海さうらゆの海や繁牛らう
又世を掃てけりゆ繁牛らう

雪山
右摺

年亦

枝あうす風さき空をさ年亦
一取ゆのふえあふしゆわす一あ

如泉
祐之

妻

血

妻血うあふし柳の文日一の種
妻血く梅うすゆを花うさ申

巨月
専志

妻

新

さう新や川つ灯りてさうま
妻を待心をと若き世さうりゆ

生也
祐之

大晦日

梅さうりゆゆい世そ大晦日
聖とつる日尔此あま大二十日

梅雪
巨月

拭

乞

乞乞てあうらうさし梅の川
かあかやまが持湯あを皆さる文

前古
不内

園

見

先の用のも屋さうし梅うさう
やうあうさうさうし梅見うさ申

宋多
唾吟

歳

善

さうあうさう年をさうし梅の善
梅さうさうの善うら梅うさう

淡山
吟吟

梅さうさうの善うら梅うさう
梅さうさうの善うら梅うさう
人其世ゆ人よあうさうさうの善

吟吟
吟吟
吟吟

歳暮

山口一海々りりり 丁未年暮 岩

儻月

馬ふやうりりり 丁未年暮 岩

巨月

行年

引年やまふりりり 丁未年暮 岩

勇現

申しつゝ 也 藤 樽 之 也 丁未年暮 岩

牛池

以年やまふりりり 丁未年暮 岩

良湖

ゆゝとととと 海 一 丁未年暮 岩

均外

除夜

亥未年暮 丁未年暮 岩

西馬

味ととととと 丁未年暮 岩

文雅

吹ふりりりり 丁未年暮 岩

不由

まふりりりり 丁未年暮 岩

沾嶺

かゝまふりりり 丁未年暮 岩

菊二

多しとまふりりり 丁未年暮 岩

考少

一題一句之類

神正月 亥未年暮 丁未年暮 岩

玉頑

雪 吹 雪 吹 雪 吹 雪 吹 雪 吹 雪 吹

東港

亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

箕山

冬の雨 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

文友

火 鉢 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

祐之

田 畑 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

梅樓

枇杷 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

素月

枯 萩 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修 亥の子 修

如鳥

于菜	日を交ぬ	や	于菜	の	美	し	き
細	豆	條	抄	き	と	あ	の
生海	嵐	あ	と	と	よ	あ	の
紫	漬	紫	漬	や	取	柄	あ
精	場	多	高	と	形	く	立
葱		不	詰	を	以	て	入
老	野	つ	き	た	ら	形	つ
柘	芭	粒	の	ア	ん	と	き
枯	草	枯	ら	き	や	さ	か
枯	菊	く	き	菜	や	よ	く

事	始	ち	ち	ち	ち	ち	ち
西	の	市	芋	と	ち	ち	ち
寒	苦	鳥	あ	ら	し	ち	ち
凍	暖	鳥	日	の	出	る	方
紙	衾	く	き	く	き	く	き
糸	の	旅	あ	ら	き	の	本
神	心	あ	ら	き	の	本	の
清	取	越	羽	織	上	毛	香
凍	か	く	凍	や	き	く	中
暖	鳥	日	の	出	る	方	と
寒	苦	鳥	あ	ら	し	ち	ち
西	の	市	芋	と	ち	ち	ち
事	始	ち	ち	ち	ち	ち	ち

可齋
 逸海
 多士女
 十條
 方榮
 蒼岳
 一植
 色園
 不由
 油齋
 梅橋

縁 逆切〜〜多量多〜〜末也餅 逆 壽山
 米 洗 三斗を煮〜〜漬る〜〜及り〜米あり〜 巨月
 乾 結 一〜結也名札〜〜漬る〜〜 豊山
 細味 吟 細〜〜煮〜〜煮〜〜又白〜〜 雪年
 年 忘 加〜〜日を一〜〜日〜〜 標 連
 茶の 希 何〜〜世の茶〜〜おや〜〜の希 月 庭
 古 歷 つ〜〜と〜〜の〜〜あり 西 馬
 年の 阪 梅〜〜の〜〜あり〜〜 崎 崎
 年名 残 舟の 竹〜〜の〜〜の〜〜 舟 路
 標 標の あり〜〜と〜〜の〜〜也 標 越 友 狸

追加

山 燗の 灯〜〜の〜〜や 寮 み ち あり 交
 舟 本 心 也 云と 際 復 々 交 あり の あり 立
 本 後 の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 標 あり の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 茶 あり の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 正 月 の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 白 の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 舟 上 の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立
 舟 上 の 舟 也 深 多 丸 立 一 の あり 立

及州や山々物方通子戸あり一か言其山
 紫雲の板屋と志とる市後舟
 於雲女
 弥る世のさく波ささくふ夫そさ
 於貞
 未とる甲のわくぬう路方あり市後川
 幸丸
 うもる本屋の庭取きり夕すしと
 於貞
 川移や舟とゆ書ハ於去と
 欣席
 坂やととる志いしく暇すあつるや
 立
 了もんと川家揚のあう於貞
 立
 押も此書つふんてく吟うと
 梅氏
 未とる一と成はととつせり梅柳
 於貞
 子観吟そ免てくうり聖化多
 由聖

附録

題詠端つら

鳥獸之於高魚鼈不老

於

鳥卵玉のやととと輕くの鶴舟う形 乃古

法華名者福不のるる病別

法華不老不灰

蓮葉もやとととととつて後葉う 為山

千金一刻とととととと

更らうとれとととととと井形雲 於美

蓬垣ふ到非仙境

山ありく尋く入まらむとてきす 水着

江清月出人

漁の舟きくくく月又く形 花外

賢王の西と昔

あつらひの道やうもあき日水 毎成

過くくくくくくくくくく

いづらひの道やうもあき日水 毎成

口能招福

あつらひの道やうもあき日水 毎成

出不得と人よつとせく巨艦来

西海の内皆足着也 水着

語人をとてきておつた 水着

昂甘苦提

清文之夜の空人よつとせく巨艦来 水着

和見回若公

空より空の地と地の影やうもあき日水 水着

風月還来孝士家

小庭よきくくくくくくくく 水着

不勝ろ裳

不勝ろ裳 水着

不喰ら食

風をよきくくくくくくくく 水着

三界無庵燈如大宅

風をよきくくくくくくくく 水着


~~~~~しをさうらうとぬが那のまゝ安

梅 通

大熊法界

あつとちぢくゆをを屋らうう田抄和

龜 成

あつと席の戯まうふあめし

七つをを入まううとある題を

さうらうらうらう

名ある茶の舟より名もよきある形か

海 臺

に我らうとあ〜のうらあまを

人の心も然〜うらまを〜う

うら〜あつまう〜うらる夜の

さあ常らうと附あまうらう

かまうびすきおおし路をく物うらう

エト 箕 山

道はわらうとあつとあつとあ

路の舟の舟は減らうとあつとあ

已うあつとあつとあつとあ

~~~~~うらうらうらう

舟よをまふとあつとあつとあ

祐 之

云孫術張優はまうらうらうらう

云路の舟はあつとあつとあ

あつとあつとあつとあつとあ

~~~~~うらうらうらう

海 臺



題畫

鶴の画の歌子

うしろさうり影さくま代やうろのさう

西松

酒舟の画の

ちうもわくくあふむくさのさう

尾村

鳥の画

うつくはさうりさうりさうりさうり

波崎

ゆき乃の祥たひ人のゆき乃のさう

あさう大津画の

か煙のさうりさうりさうりさうり

新古

小舟の画

いく世路りさうりさうりさうり

拙誠

舟の画

梅の香さうりさうりさうり

吟臺

陶関の画

舟を易さうりさうりさうり

吟臺

傾城

傾城や舟さうりさうりさうり

波崎

まうりさうりさうりさうり

京季さうりさうり

飛してさうりさうり日れありさうり

等哉

近江のり祓女



慢  
無

不助の爲はけりまき多義くまき  
かうらの二馬子

卜早

子規のうらみとてしるか永七

詠書

鳥ハまろろり成あるとしと命

あてのむ難とそをちうりし

かよらとそ早き後湯治和

口助

不ぬゆ志ツ一秩餘をといと

ある里しけり人なぬかーし中

餅ハあよを海へまーそ果古多

巨月

出羽のうらよとよあつまき

まか多し屋このみ晦う中をのり

素月

新髪甲お懐のそん一様く甚所

下ふそ又の松系よりそあをそ

公神とそ一村あゆを様そ又ハ

多は海岸山飯出のそよ外

あぬとたろそ山波海はぬく

雪のりそ白く前ゆる山ハ松指

青く多り西とあふ了れ田細

人家成まし一愛うふ一ハ

名跡を様そあふあとおのり

うらまをそとそあを眺そ



能行

つらふらふらふらあふらふ

まろまろのあふらふらあふらふ月 千布

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 花斗

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 日月

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 在石三草

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 採炭

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 尋香

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 漆山

あふらふらふらあふらふらあふらふ

あふらふらふらあふらふらあふらふ 嘉穀



よー名の里入湯のおろろ

影こせろり里を新りゆふとくきす

戸田川をりる船中

あまきまゆとゆま響きおてをるま

せしし流るる

松をうて風せつかしーたろろの湖

川越のわたり色ま入る川子

あつるる

落船をぬのたふろろとあやろ

津川夜泊

ふつとあつる一おの岸のおろろ

管地山中こそうあつるる方を

心驚ふふりこころまふるめを

箕山のろろふ不伊豆の入江うね

一葉の漁船をうらまて海上三里

みろ旗麻の名をまをたろ

流るる

風さしー山岩をぼふ波のうへを

碓井峠を

くあつるるあつるるせし子

京へのあつるる

夜山越す(ま)をこめをうらま

米久

海毒

松守

花お

可静

乙解

唯吟

考沙

標月



小田原より

青梅や小崎のものを志す 本鶏

平野より

志山をりて 籠之をりて 一馬

無津川をりて

川越より 河代より 籠の籠 籠

路の苦しみ

後より ありの籠波の羽め 籠

何の端より

石投より 籠伝と 籠 籠 籠 籠

せきこ 籠山中

高き山より 地へも 籠 籠 籠 籠

大山東迄 谷より 籠 籠 籠

籠 籠

籠より 籠 籠 籠 籠 籠

仲秋の籠 籠

端より 籠 籠 籠 籠 籠

天保山より

籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

籠 籠 籠

籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

大山より



比支字の山より形をなす物なり  
牛右

高きつゝあきとの鳥を牧し以て

而して馬より獲てよむる

箕州や落馬の袖に草を以て  
谷外

川布の玉川より草を以て

高きつゝあきとの鳥を牧し以て  
景三

三五味苦糞

新くさき文の上より草を以て  
水壺

降る

病くさきもあきのゆくこころの宮殿  
唯也

本字より草を以て

とく病ても病の志ありてあきとん草  
常晴

小倉井より草

此星の志や困るるを草より草  
祐々

江の島より草

高きつゝあきとの鳥を牧し以て  
牛右

七里より草

教立と眼を以て草を以て  
立

水越舟江より草

此國の草を以て草を以て  
海壺

日る草

甘きつゝあきとの鳥を牧し以て  
月柳



名所

よしおのせききさうくをがの  
ふもとみか

ちうつとあやふととのふをまゝとま 而后

小夜のあらし

あらしとあらしふ雨やそよの秋 野原

まききよとそくろくおひて

羽子ひとあらしきききききき川 巨月

あらしきききききききき川 樽石

あらしきききききききき川 白起

湖多眺る

夕ふあやきききききききき 吟風

筑波山中

あてよせぬきききききききき 一馬

海東十二橋

あてよせぬきききききききき 立

陸奥文照

秋の夕あやきききききききき 野嘯

龜戸川松梅

あてよせぬきききききききき 笑語

池のほとりふやきききき

不審やあやきききききききき 野解



古跡

藤倉夜泊

あつ月やさうらう昔の所々跡  
まじりや松のむらうつ古戰場  
稲石

関口旧跡

あつやけふさうらうたき堀も時雨あつ  
ととと

送別

とちのくくしゆる石あつふかり送らる

踏出しよはせつ神よ田うと恵唄  
為山

田一福留の人を送らうと

留別

新よらうと送らうと又思ふあつあまう形  
乙良

堀よ心さう人を送らうと

松左新しうらうと小まの残さう  
見外

漢藤子の語らうと送らうと

猪口とらう思ふあつ海苔白魚  
祐之

美やあつあつと

中よあつとらうと馬のそらう形  
後篇

さうらうとらうと

何とあつとらうとあつとらうとあつとらうと  
春峨

水越とらうと



贈答

青田見よつ福うるとこのふのまき

以書

何る人のえへ通るうの端よ六十

二ツ條の歌を拵くと書きて

いさきよふ交物きて又玉のやう

千布

訪友人の逢

物之ハハのやち田のゆきこよめ

雪風

賀

賀書を送す

從形〜いふより後の日かゆる

由松

世おふ度ふ止り花の凝り形

卓守

梅室をぬ八旬の賀

五梅やハ方て〜うをみハ巾

彌得

香ふ白ふ八十崎うぬそ梅の妻

為山

梅ちまやと百と世をゆるの後

祐之

七十七の逢妙美

ひと口つ〜を教あり松かよ木

其山

と〜毎よよき花さ〜や後書州

赤山女

やう〜ある字をたの〜やると

松松女

世中〜の〜さ〜ハ志〜く〜人林

花燈女

再見の賀

よお〜よ〜書や〜ん〜おの〜

江三



父上の法をうけつゝおのちのちの勢  
たすかんと祝して

桑可うささうううう此松正と太 沾嶺

近生

初年也花正のまみハまうまう  
裾

家督

ゆつらと紫のゆききやう世別り家 主

新宅加夫

ゆきのふけ出のまな廣く牡丹相 儼月

新宅加賀

ましとやうとさふまよき怪居 紫風

初老の賀

是々の松系長く語りまう 千布

女子のあらうまうまをまうらて

うあたると思ふまうまをまうらて 生也

友人まうまのまうら

昇る日をあらうま開のまうら 可勢

産屋を祝う

子代つぎ祝うまをまうらて 其教

自賀

万代の祝をまうらてまうらて 梅豊

古神賀



哀傷

あてそーの梅の花もさうもやろちとや  
中うさきと枝を定まらぬ梅の心  
十うあうの春の心もさうもさうも  
く華はさうもさうもさうも  
七ツをさうもさうも

あきさうもさうもさうもさうも  
梅の花もさうもさうも

梅の花もさうもさうも

さうもさうもさうもさうも  
梅の花もさうもさうも

山加居居をさうもさうも

山加居居をさうもさうも  
山加居居をさうもさうも

時來もさうもさうもさうも  
時來もさうもさうも

悼友人

戦く業もさうもさうもさうも  
戦く業もさうもさうも

このまもさうもさうもさうも  
このまもさうもさうも

ふもさうもさうもさうもさうも  
ふもさうもさうもさうも

在ると思ふもさうもさうもさうも  
在ると思ふもさうもさうも

な夜や三十あるひとむの  
な夜や三十あるひとむの

さうもさうもさうもさうも  
さうもさうもさうも

里中居居の追福も

西へ飛ぶもさうもさうもさうも  
西へ飛ぶもさうもさうも

ある人の証祥も

一馬 一賢 士敏 新區 兼文 尺比 松富



夏の夕まはる月夕や子 観 貞々

芭蕉のまこと人をもアとまはる

孫娘をいふて

雪と月と一ひあはてまのう 冬 万古

幼孫のまこと三才よとてきり引

却月の葉もつゆも帯あは

風よまをそいさしは

夢ももつてはるまはる 梅の若葉も 多う女

あはたらけりうめあはるう

泉云の客

まといろく西のうらむや 氷毒

懐 舊 田

梅若葉

侍とかくやおもふや 田まは 祐々

謙倉うらむ文治建う

昔を思ふ

けとくくわえ屋をくろく米の 貞人

理明居士のちかき思ふ

うらむをいふ 又もや屋の草の 一の翁

歌多し思

しるしの夜の朝はゆめを 由誓



二度逢ふ恋

通心路の思ふもあはれ梅梅  
尾村

思ふ恋

夢ももくもくもあはれ  
拙誠

陸燕

たつたの雲三足つる消す  
閑雅

思ふ恋

夢ももくもくもあはれ  
儂月

あよひ路やまの夢の夢  
大糸

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
貞之

又の夜を影帯へとも  
祐之

思ふ恋

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
波瑠

思ふ恋

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
麦草

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
外右

思ふ恋

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
外麻

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
不二丸

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
菜文

思ふ恋思ふ恋思ふ恋  
あや女

思ふ恋



妹よ立てて人を見月とく

唯今

養西意

改らざつともおやまてくき深き

立

道てみあらし

見らるる道はくまはり夏のみ

氷臺

何とて人ぬつき形を惜しめ

祐之

道ふ意

あつた夜や梅の香もも似る

一馬

行意

あつた夜やあまを待つるの月

牛宿

初意

あつた夜やあまを待つるの月

立

室中扇

あつた夜やあまを待つるの月

雄飛

不訪る意

あつた夜やあまを待つるの月

祐之

逢夜の思

あつた夜やあまを待つるの月

立

思意

あつた夜やあまを待つるの月

氷臺

お懐

あつた夜やあまを待つるの月

由哲



耳明の事と過半をいふ

ゆつゝまこと給やゆつゝあまらうるま

米久

おとろくともおつふまことあやまのち

而后

まろくともお悔まそ秋のくま

兼文

ふんろ人さそをさるしこのん

花よしそろまそをさるしこのん

多代女

よろろいそそのまろかひ

ことまきこよや

捨くまそ一庭まそ世をまそかひ

唯風

神 祇

麻呂の言、摩々原

春すすく、秋代の松の跡

苗

花外

神 田 祭

明けや出雲くくや、田のあま

波路

横崎といふふあまらうるまの浦

そ割の妻日明神をぬいて

是路へ秋麻戸世女小崎うら

舒囉

こ子孫火

秋をちりまそや青田火の健来

神久

茅天非

世中よはまを捨れりしあまらうるま

龜持

ま川田村の神久



糸糸糸や妻の目掃をあのつらよと  
糸山せ

一麻崎より

凍るぬや中る星に山々々々  
正 語

殊度をもつ通し一りりり  
一 妻

多の葉やほほほほほほほ  
僕 目

度あや打りもくくくくく  
糸 山

心のつらめくくくくく  
不 二 丸

ぬくりや車井あや文世  
曾 玩

拍のあやまらふとあやまらふ  
文 叙

東宮殿西宮殿  
九百五十糸忌法樂

釋教

あちあち千とせのたつとや糸の松  
糸 山

はく獄少く二伯をまら糸山

焼くまをまら

經之夜やまらくまらくまら  
水 臺

一天四海皆歸妙法

日の目又ぬ糸山をまらくまら  
万 古

時 雨 會

糸山接くまの糸山をまらくまら  
千 布

糸山接くまの糸山をまらくまら  
世 負

日光市深古



言入る考より清き交仰の事

世外

素秋集子類

破を過る妙妙の心ゆくを案集

立

捕正歳五百の年忘

いさやうや花をたふす反持弓

而店

あつちうそ

上り女よりかきあつちうそ

曾玩

あつちうそや花をたふす反持弓

休庭

あつちうそや花をたふす反持弓

漢操

我何の之を引くる

娘ひらきや花をたふす反持弓

曾玩

物名

つらね

世をひらきや花をたふす反持弓

帯巻

玉の名六つ

おとあつちうそや花をたふす反持弓

巨月

鳥の名四つ

かろあつちうそや花をたふす反持弓

生也

十二支五つ

あつちうそや花をたふす反持弓

梅複

あふき

冠



月無

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

寂草

ちうひ

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

變名

月無

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

由撰

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

五休

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

拙稿

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

分賞

雜題

可

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

花外

杖

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

万古

不二

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

喜久雄

佛

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

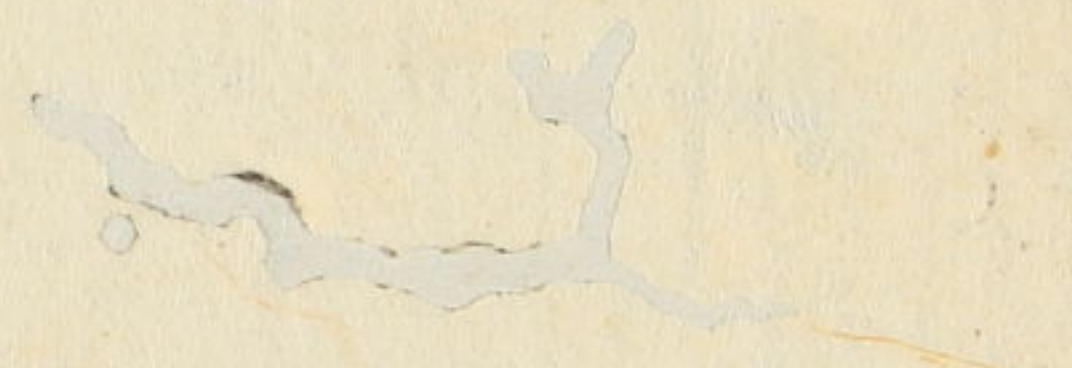
若草

障

あやの道くろくろやあやの道や終るまの道

拙稿





廿九



